

鳥羽市地域公共交通会議会議録

会議の名称	平成 30 年度第 1 回鳥羽市地域公共交通会議バス幹事会
開催日時	平成 30 年 6 月 27 日（水）10：00～11：30
開催場所	鳥羽市民文化会館 3 階 中会議室
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつ 2. バス幹事会委員自己紹介 3. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成 29 年度鳥羽市地域公共交通会議決算について【資料 1】 (2) 平成 30 年度鳥羽市地域公共交通会議予算（案）について【資料 2】 (3) 地域内フィーダー系統確保維持計画（案）について【資料 3】 (4) 第 63 回鳥羽みなとまつり かもめバス停車休止について【資料 4】 4. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成 29 年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果について【資料 5】 (2) 平成 29 年度かもめバス利用状況統計について【資料 6】 (3) 平成 30 年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域公共交通調査事業）計画推進事業について【資料 7】 (4) 鳥羽市運転免許証自主返納者支援申請について【資料 8】
会議資料	事項書・席次表・委員名簿 【資料 1】 平成 29 年度鳥羽市地域公共交通会議決算 【資料 2】 平成 30 年度鳥羽市地域公共交通会議予算（案） 【資料 3】 地域内フィーダー系統確保維持計画（案） 【資料 4】 第 63 回鳥羽みなとまつりチラシ校正 【資料 5】 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果 【資料 6】 平成 29 年度かもめバス利用状況統計 【資料 7】 平成 30 年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付決定通知書 【資料 8】 運転免許証自主返納者申請数調べ 読売新聞記事
公開・非公開の別	公
傍聴人の数	4 人（三重交通 3 名、中部運輸局 1 名）
出席委員	立花会長、加藤委員、伊藤委員代理 久世氏、吉川委員代理 伊東氏、西本委員、三村委員、中垣内委員、板谷委員、清水委員、榎委員、前田委員、岩本委員
オブザーバー	なし
欠席委員	中村委員、小寺委員、世古口委員、今井委員
事務局	定期船課 中井、野呂、寺本
<p>1. あいさつ</p> <p>○中井事務局長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会 ・配布資料の確認 <p>○立花会長挨拶</p> <p>昨年度は地域公共交通網形成計画を策定するにあたり全体会を開催するなど、例年にないほど多く集まっていた。今年は通常の開催ペースに戻るが、策定した計画を推進していくため、皆様にご理解ご協力いただきたい。本日の会議は、中部運輸局に提出する平成 31 年度認可申請を中心にご討議いただきたい。</p> <p>2. バス幹事会委員自己紹介</p> <p>出欠報告と出席者全員による自己紹介を行った。</p>	

3. 協議事項

(1) 平成 29 年度鳥羽市地域公共交通会議決算について

○野呂事務局員

資料 1 について説明。

- ・ 監事 吉川委員代理 伊東氏より監査報告があり、出納は適正であると認められた。

(2) 平成 30 年度鳥羽市地域公共交通会議予算（案）について

○野呂事務局員

資料 2 について説明。網形成計画を推進していくための、計画推進事業補助金が計上された。

○加藤委員

計画推進事業内容を、その後の資料 7 のところだけで説明するのではなく、予算と合わせて説明してほしい。すでに申請しているものなので異論を唱えるつもりはないが、内容説明があつて初めて予算審議ができるので、順番が違うと思う。

○野呂事務局員

資料 7 について説明。計画推進事業として、懇談会の開催、企画切符の作成を予定している。

○加藤委員

企画切符の内容についての意見出しは、この後できますか。

○中井事務局長

報告事項のところで、懇談会の内容については話をします。

○加藤委員

この事業計画は網形成計画に位置付けられており、これをやると一番いいと事務局が判断したということでもいいですか。

○中井事務局長

はい。

(3) 地域内フィーダー系統確保維持計画（案）について

○野呂事務局員

資料 3 について説明。目標を達成するための事業及び実施主体、利用者等の意見の反映について説明。

○立花会長

自主返納の関係でバスを利用される方の状況を、鳥羽警察署前田委員に伺いたい。

○前田委員

高齢の方が多く、現状としては身内の方に車で送迎してもらう方が大半だが、バスで来る方も少しはみえる。バス停を設置してもらったが、横断歩道が少し離れた場所にあるため、バス停まで遠回りになってしまうことから、現在上りと下りのバス停の中央付近に横断歩道を新設するよう申請しているところ。制度の認知度が高まり、横断歩道もできるということになれば、もう少しバス利用者も増えるのではないかと考えている。

○立花会長

ダイヤはどうですか。手続きしてから、すぐ帰れるバスはありますか。

○中井事務局長

次のバスまでには、どうしても間が空くとは思う。

○立花会長

間が空いてしまうと、時間をつぶすところがないので、ご迷惑をおかけするかと思う。

○前田委員

手続きとしては数十分しかかからないので、時間をどうやってつぶすかという問題はあるとは思うが、それでもバス停を設置していただいたのは、ありがたいことだと思っている。

○立花会長

免許の返納に限らず、他の機会でも利用していただけることもあろうかと思う。

○伊藤委員代理 久世氏

今、マスコミとかでも高齢者の事故は話題になっているが、返納件数は伸びているのですか。

○前田委員

5月末の鳥羽署管内における返納件数は106件。うち75歳以上の方が97件で、鳥羽市にお住まいの方だけの返納件数は24件。

○加藤委員

鳥羽警察署前のバス停については、自分のフェイスブックで紹介した。国交省の委員会でも、こういうこともできるという事例として紹介した。利用がたくさんあるとは思っていないが、免許返納する人にとってバスという選択肢もあるということを示すためのきっかけになると考えている。免許返納とバス停はセットで宣伝して行ってほしい。ただ、基本的な認識として持ってほしいのが、車に乗るより公共交通に乗ることの方が大変であるということ。返納には2種類あって、車の運転が危ないからという場合と、危なくなる前に早めに返納するという場合がある。車の運転が危ないという方については、バスに乗るのも難しい。そういう方については、この会議での範疇ではない。返納するしないに関わらず、まだ十分体力もある方に、公共交通機関を利用してもらうようPRしていくことが大事なので、老人クラブの役割は高いと思う。計画推進事業の中でも、そういうことがあるといいかなとは思ったが、どんな形でもやっていってもらえればいいと思う。

フィーダー計画については、まず1点目が計画推進事業をやることについて、もっと言及した方がいいかと思う。懇談会をやることについて事業で支援されているということと、企画切符のことについて言及しておくべきだと思う。

2点目は、定量的な目標の部分を資料5と対照して書いていただきたい。事業の自己評価を第三者委員会で客観的な目で見えて評価した結果が資料5であるので、それを踏まえてこのフィーダー計画は作成してほしいが、事業を着実に頑張るといえることが分かるような記載になっていければいいというのが、結論ではある。そうすると、計画推進事業については絶対に書かないといけないということになる。

3点目は、資料6と対比すると、4つの目標のうち1.乗継割引券利用枚数は達成できていないが横ばい、2.かもめバス乗車人員は5%減、3.周遊券発券枚数はほぼ達成できたが横ばい、4.ハッピーチケット発券枚数は6%増となっている。そうすると、1はどうしたら達成できるか、2は企画切符などで頑張るといえること、3は着実にやっていくということ、4はよく使われる方にアピールしていくというようなことを書いていくといいかと思う。

○中井事務局長

訂正して、作り直しをさせていただく。

○加藤委員

修正については、一任ということになるのかと思う。それと、国崎線の時刻を調べたところ、鳥羽警察での滞在時間は1時間20分ぐらいになる。まあ、そのくらいだったら、時間がないよりはいいと思う。

○前田委員

申請が重なる場合もあるので、時間に余裕がある方がお年寄りにとっては安心かと思う。

○野呂事務局長

各老人クラブで話をすると、バスに乗ったことがないという方が大半であるので、1つのきっかけ作りとして、これからも積極的に進めていきたいと思う。

○立花会長

この計画の内容や修正等については、会長一任ということでもよろしいか。承認いただける方は挙手をお願いします。(全員の挙手あり)

(4) 第63回鳥羽みなとまつり かもめバス停車休止について

○野呂事務局長

資料4について説明。定期船での荷物運搬業務の都合上、18時以降でない屋台エリアを車両通行止めにはできないが、屋台が並び始める15時頃から人が増えるので、バスの運行が非常に危険な状態である。三重交通と相談のうえ、15時でバスセンター止まりにすることとなったが、中部運輸局への申請にあたり、地域公共交通会議の合意が必要であるため、今回協議事項にあげさせていただいた。

○立花会長

承認いただける方は挙手をお願いします。(全員の挙手あり)

○中井事務局長

道路事情で通行止めになれば合意は不要だが、その前に止めるとなると合意がいるということなので、今回協議事項にあげさせてもらった。手続き上、もっと早い時期に合意がいるとのことなので、来年からは、この件については書面決議にさせてもらおうと思っている。

4. 報告事項

(1) 平成 29 年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果について

○野呂事務局長

資料 5 について説明。昨年度策定した網形成計画に基づき、今後はそこに記載されている事業を推進していく。昨年は離島地区の 3 老人クラブでバスの乗り方教室をさせてもらったが、バスに乗ったことがないという方が大半であった。坂手島はバスの利用者が多かったので、色々な意見をいただくことができた。

○加藤委員

第三者評価委員会では、例年懇談会のことが話題になっている。懇談会の中で、バスや船のことなどを皆で話し合っ、いかに分かりやすくするか改善を図ってきたということが評価されているように思う。しかしながら、遷宮やサミット効果がなくなって、石神さんは好調でも全体として利用は落ち込んできている。ハッピーチケットが売れているということは、地域に定着してきているとは思いますが、石神さん以外で観光に来る方などの部分で弱いところが見えてきている。網形成計画を、新しい委員の方に配布してもらって、事業の進捗状況をチェックしてほしい。何年度に何をやるとか、誰がやるということも書いてあり、今日ここに来ている方はだいたいやる側に入っているので、市役所や三重交通がどれだけやれているかということだけでなく、自分がどれだけやれているかということも問われるので、できるだけ毎回進捗チェックをしてほしい。二次評価に書いてある着実に実施されることを期待するというのは、そういう意味です。

(2) 平成 29 年度かもめバス利用状況統計について

○野呂事務局長

資料 6 について説明。7、9、10 月に利用者数が落ち込んでいる。消防本部等と情報交換したところ、7 月は長雨が多く、9、10 月の週末や連休は台風上陸ということがあり、最も客の入りが見込める時期に天候が影響し、利用者が落ち込んだということが考えられる。今後も地域と連携協力し、利用者数が減少しないよう努力していきたい。

○加藤委員

天候に左右されたことを折り込んでの 5%減ということなので、天候次第で回復できると思う。ただ国崎線の 9%減というのは、他よりも減少幅が大きいので観光依存があるのかもと思った。

○中井事務局長

国崎線の大きな落ち込みというのは、サミットの影響がある。サミットで警察関係者が 28 年 4~6 月にたくさんバスを利用された。

○加藤委員

ただ、1~3 月も利用が減少しているので、台風や長雨だけが原因ではなく、実はかげりがみえてきているということも考えられる。一方で石鏡線は堅調なので、それぞれの原因について考える必要がある。

○中井事務局長

昨年は、焼き牡蠣を目的に来る客が多かった。定期船についても、桃取航路が同様であった。

○加藤委員

となると、今までバスの方は石神さん頼みだったのが、多角化してきたとも考えられる。あとは、小浜を何とか活性化できるかというところ。鳥羽でバスに乗っていると景色が非常に良くて、車を運転しているのとは全然違う気分が味わえる。どこかで車を停めて、バスに乗り換えてほしいぐらいに思っている。ゆっくり海の博物館ぐらいまで行って景色を見てもらうのもいいと思うので、周遊券の乗り方についても、鳥羽には色々いいところがあるから、これを使って行ってくださいとアピールしていけるといいと思う。食べ物はすたれないと思うし、お酒を飲んでもらえば車は運転できないので、そういう売り方もできるのかなと思う。

それと、定期券も減少幅が大きいですが、子供が減ったということだけが原因ではないと思う。月によって大きく減っているところがあるので、親御さん達にどうアピールするかも重要となってくるし、不満があるのであれば、きちんと聞いて改善していかなければならない。

関連して、松尾乗り換えの状況はどうですか。

○野呂事務局員

もともと松尾乗り換えの対象となる高校生が少ないので、減少傾向にある。

○加藤委員

停留所の位置が踏切のそばで、中途半端なところにあるので、もっとスムーズに乗り換えできたらいいのに、すごく惜しいなと思う。

(3)平成30年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域公共交通調査事業）計画推進事業について

○中井事務局員

現在、懇談会で協議している内容について、紹介させていただく。今年度は網形成計画の新チケット導入事業に基づき、企画切符の発行を予定している。1つは、去年の10月に海の博物館が市有化されたため、海の博物館とタイアップして企画切符を作っていくという案が出ている。昨年度も竹あかり月あかりのイベントに合わせて臨時便を出したが、駐車場はいっぱいなのにバスに乗る方がかなり少なかった。広報等がきちんとできなかった部分もあるのではないかと考えられたため、今年はイベントの実行委員会に定期船課も入れてもらい、イベントの企画段階から関わっていくこととした。その他にも海の博物館関連のイベントに合わせた企画切符を出していこうと思っている。

もう1つは、10月8日の鳥羽の日に、市営定期船の無料乗船会をやろうと思っている。観光客向けの島めぐりはマリンレジャーがやっているのでも、市内や近隣市町村の方で、あまり船に馴染みのない方に、無料で乗ってもらう機会を作って、船を楽しんでもらったり、海に親んでもらえれば裾野が広がるのではないかと考えている。その時の乗船記念に切符を渡したいと思っている。

また、懇談会では次年度の事業についても話し合っているが、鳥羽高校の生徒達と連携して、高校生独自の視点でバスの観光コースを考えてもらい、できた物をバスセンターに置きたいと思っている。1年に少しずつでもコースを作っていく、それを繰り返すことでどんどん増えていけばいいと思う。

○立花会長

海の博物館の弱点は駐車場が狭いことと、建物が県道から少し入ったところにあるということ。バスなら博物館の近くまで行くので、その辺を売りにしていくといいかもしれない。バスで行ってもらおうと、トータルのお金が少し安くなるというようだがことあればいいかもしれない。三重大学からもサテライトで学生が来るようになったので、その辺も活用できればいいと思う。

○加藤委員

去年の竹あかり月あかりのチラシを見ていると、バスのことが周知されていない。伊勢神宮の正月のパークアンドライドは、全国でも数少ない成功例で定着している。ああいう風に誘導とかもやっていかないといけない。それも含めて、こういうチラシを作る時は公共交通のことを書いてもらわないといけないし、特に市が主催・共催の時は書くことを義務付けてもいいぐらいだと思う。かもめバスの時刻表をQRコードで読み取れるようにするとか、地道なことだがお願いしたい。

○中井事務局員

今年は実行委員会の中で、取り組んでいきます。

○立花会長

交通の総量を少なくするという意味でも、公共交通機関を利用してもらうことを考えていかないといけない。

○加藤委員

やはりイベントが一番たくさん人が来るわけなので、公共交通が一番力を入れなければならない。海の博物館のホームページからとばすマップに飛べるようになっているのは、まだ良かった。

○清水委員

鳥羽高校としても、高校生のコース企画を十勝バスのパンフレットを参考に協力させていただきたいと思っている。ただ8月までは観光甲子園があるので、それが終わってからの活動になる。

(4) 鳥羽市運転免許証自主返納者支援申請について

○野呂事務局員

資料 8 について説明。池上・屋内の申請件数が多いが、この地域はハローでのハッピーチケット購入枚数も多い傾向がある。農村地域の老人クラブで乗り方教室をやると、車がないと農業や買い物ができないので不便というご意見をいただくが、同居の家族より返納を勧められるという事例もある。

○前田委員

返納者 106 名のうち、経歴証明書申請者は 99 名でほぼ 100% 近い。警察としては返納しなさいとは言えないので、次回免許更新時に高齢者講習受講の必要がある方に対しては、次回は自主返納という選択肢もありますよという案内パンフレットをお渡ししている。ご家族からの相談も多い。

○加藤委員

免許返納自体を目的とするのは本来おかしい。なるべく車を自分で運転せずに出かけてほしいということに取り組んでいかないといけない。先日、東京でグリーンスローモビリティのシンポジウムがあり、時速 19 キロが最高速度の電動自動車に緑ナンバーが付けられるようになった。停留所から少し遠い方を送っていくとか、町中でバスが入りにくい所に入っていくとかの活用ができる。ゴルフ場のカートの様な物が、公道で緑ナンバーを付けて走れるというイメージ。国道だと少し邪魔にだが、脇道とかだと自転車よりは早いし乗りやすいと思う。沿道で歩いている人と会話できるので楽しいし、鳥羽は観光地なのでいいと思う。今年度と来年度で補助制度もできるので、見てみてほしい。離島でも注目されていて、シンポジウムでは大分の姫島が紹介されていた。ここは全ての車を電動にするという計画を立てている。

○榎委員

二輪もありますか。

○加藤委員

姫島には 9 人乗りの四輪や二輪などの色々な電動自動車がある。離島はガソリン代も高いので、普及が進んでいる。以前、答志島でもやったことがあるが、補助制度もできて、その頃とはかなり話が変わってきている。今年度も補助制度があるので、興味があれば急いで手を挙げてみるといいかもしれない。既存の交通機関にこういった低速交通を含めていくと、お年寄りにも使いやすくなっていくんじゃないかと思う。電動交通はガソリン車に比べて坂には強いので、その点も有利だと思う。基本的にはオープンカーなので暑さ寒さはあるが、覆いをかければ歩いているのと変わらないので気にならない。宇奈月という寒い所で真冬に乗ったが、大丈夫だった。将来的には自動運転になっていくと思う。輪島市はすでに、道路にビーコンを埋め込んで自動運転できるようになっている。普通の自動車が自動運転になるのは 20 年先だと思うが、低速交通なら自動運転化しやすいので、運転手も不要となってくる。鳥羽には向いていると思う。鳥羽は観光地なので人もたくさん来るので、活用していくといい。

5. その他

○野呂事務局員

加藤委員の新聞記事について紹介。

○加藤委員

熊野市の事例はすごく注目されているが、おじいさんが 1 人でやっているととても大変なので、こういうものに頼りきるのもよくない。自分としてはやはり、バス・タクシー会社に頑張ってもらい、そこをこの会議でもサポートしていかないといけないと思っている。鳥羽でもそういうことを意識してやってほしい。

○立花会長

公共交通は地域の方が利用してこそ残せるものだと思う。この会議でも地域の方に便利に乗っていただけるということを考えていかないといけない。皆さんに協力していただきながら、維持と活用をしていきたい。

6. 閉会

○立花会長

平成 30 年度第 1 回鳥羽市地域公共交通会議バス幹事会の議事については全て終了しました。今後開催させていただくバス幹事会について、再度出席をお願いし会議を終了させていただきます。